



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成27年12月25日(金)

Vol. 318

年末の御挨拶

秋元 秀夫

今年もあと6日…

皆様にはお忙しい年末を頑張っておられることと存じます。

会議所も創立20周年を迎え、複雑な経済、政治の年でありましたが、無事大過なくと言う表現の通りの年を終る事が出来ました。青年部の20周年記念式典が3月5日に控えておりますが、諸行事に20周年の冠名をつけてご努力下さり大きな花を添えて下さりました。更には各商店会が共演するような街を明るくしてくれたイルミネーション。大変なご苦勞をされて見事な大輪を咲かせた小糸川花火祭り。地方不況と言われる中で、良きリーダー達が現れ、やる気になれば出来ると言う一つの良き証明をしてくれた1年でありました。改めて御礼を申し上げたいと存じます。

これらの経験を自信と知恵として是非生かしていただきたい。来る年は特に経済、商いについてはどうかと問われるならば明解な解答はしにくい年の様であります。

会議所等の関係団体から、11月20日前後締め切りで新年の挨拶原稿を依頼されましたが、確証ある答えは書けませんでした。

米連邦準備理事会(FRB)のグリーンスパンに代わって新議長になったイエレンは著書『良い政策・悪い政策』の中でグリーンスパンはリーマンブラザーズの住宅ローンを放置し、リーマンショックを犯した事は批判されるが、以後米国が目覚ましい成長を遂げたのも米

国はツキに恵まれ、グリーンスパンも強運であったからだと書いております。今回の米国の利上げも既に世界の官民合わせた債務は2京4千兆円を超え、気になる事は米国の自動車のサブプライムローンは住宅ローン以上に信用度が低いと言われながらすでに100兆円を超え、いずれは破綻するのではと説く人もあります。世界一の投資家と知られるビルグロスは「カジノもいずれ無くなり、ギャンブラーたちも家に帰り、宴会はもう終わりだ」と言った事は何を意味するのでしょうか？

来年日本は地方不況が続くのではと懸念致して居ります。何度もこの通信で書かせてもらった事ですが、年金で余生をゆつたりのんびり暮らすゆとりはないと思います。ピケティが言う様に、日本も格差社会となって大衆層の貧困化が進んでいるからであります。経済的な立場から言えば、大型店、コンビニの過剰供給を行政が放置しているからであり、このまま寡占化が進めば市民の暮らしを豊かにすることにはつながらないからであります。狭く資源の無い小さな日本の国はそれぞれの土地の風土、暮らしに根付いた小売業、生産、加工業があって2代3代世代が同居して家業を守り、家族全員が働き、老いては家族全員が年金をもらえる日本一豊かな福井、富山、石川、岐阜、滋賀北陸5県があります。

地方創生には大企業誘致ではなく、小さくとも自分達で自立でき中流社会を築く事を来年はもっと大切に、政治、行政と業界一体となって進めたいと願っております。

期待された観光案内所の是非が論じられております。官営案内所の様なムードのものではなく「街の商人直売市場」の様な村や町の商人が集まって案内所を囲んだ小さなまちを作して下さい。

それでは1年ありがとうございました。

皆様、元気で良い年をお迎えください。